

久留米市立江南中学校 卒業生
久留米市立江南中学校 生徒会執行部 生徒
久留米市立江南中学校 生徒及び関係各位の皆様方へ

令和5年3月22日(水)
Team 大川 未来を拓くネットワーク
代表 只野哲也
副代表 今野憲斗

ご寄付の御礼

みなさんはじめまして。「Team 大川 未来を拓くネットワーク」代表の只野哲也と申します。
この度は、久留米市立江南中学校の皆様が、代々受け継いでこられた「募金活動」に寄せられた募金の中から、当団体へご寄付を賜りましたことに、心より御礼申し上げます。

私たちは、昨年12月末に、お互いのことを知るためにオンラインにて生徒会執行部のみなさんと、意見交換会を実施しました。参加した全ての生徒さんが、「今自分たちが向き合い続けていること」と「Team 大川が向き合い続けてきたこと」を重ね、東日本大震災の中で大川小学校に起きたことに関する質問を一人一人がそれぞれの視点で投げかけてくださったおかげで、より本質に迫る意見交換をすることができました。

また、これまでの募金活動の取り組みについて、とても丁寧に、そして熱く伝えてくれました。募金活動を始められた2013年の当初から、先輩から後輩へ大切に受け継がれてきた「想いと願い」も受け取ることができました。結果、私たちは、今回の意見交換会を通して「活動を継続する“覚悟と熱意”」を学び、「子どもたちが主体的に活動できる環境」の大切さに気づくことができたのです。

私たちが、江南中学校の生徒のみなさんにつながり、同じ時間を共有できているのは、「募金活動」が今日まで継続されてきたからです。「続ける」ということは、簡単なことではありません。私たちは、これまでの活動の中で、自分の信念を見失いそうになることがありました。

それでも、何度も新しい覚悟を重ね、昨年任意団体として再びスタートを切ることができたのは、「一緒に続けることを諦めなかった仲間」がいたからです。そのことをみなさんとの関わりと、募金活動の振り返りから、再確認することができました。

この度実現した「大川と久留米」のつながりは、「募金活動をはじめた久留米の子どもたち（江南中学校のみなさん）が創り上げた未来」であり、「大川小学校を遺すために活動してきた、大川の子どもたち（Team 大川の私たち）がたどり着いた未来」にほかなりません。どちらかが途中で投げ出していたら、決して会うことはありませんでした。それはお互いに、子どもだった私たちと本気で向き合い続けてくれた「素敵な大人」がいたからだと思います。

だからこそ、今度は私たち自身が、子どもと本気で向き合うことのできる「素敵な大人」に成長したいと思っています。そのために私たちひとりひとりが今の自分自身と逃げずにしっかりと向き合っていく事がこれからの大川と久留米の未来を拓くことにつながると、信じています。

私たちは、以下に示す3つの理念を掲げ活動しています。

- ① 「未来のいのちを救う」 ② 「子どもの笑顔を守る」 ③ 「みんなと向き合い心を育む」

私たちの、今年の活動は、「大川にコミュニティの拠点をデザインする」ことです。誰もが安心して大川に帰ることができる居場所を創り上げるために、準備をすすめております。「子どものいのちを真ん中に考える」ことを見失わないために、「全国の子どもたち、若者たちがつながる場」を創造するために、この度ご寄付いただいたお金を大切にに使わせていただきます。

みなさんと大川の地で語り合える日を楽しみにしております。いつでも大川に帰ってきてください。是非「ただいま」「おかえり」の言葉を交わしましょう。

改めまして、みなさまのご厚意に感謝申し上げ、御礼の言葉とさせていただきます。

江南中学校の募金活動の様子①



江南中学校の募金活動の様子②



江南中学校生徒会との意見交換①



江南中学校生徒会との意見交換②



Team 大川の活動(おかえりPJ)①



Team 大川の活動(おかえりPJ)②

